

応急危険度判定士を派遣

平成 28 年熊本地震で被災した住宅などの危険度を判定するため、厚木市から応急危険度判定士の資格を持つ建築指導課の職員 2 名を被災地に派遣しました。

今回の派遣は県を通じて要請があり、4 月 26 日から 28 日までの 3 日間、判定活動を行い余震等に起因する二次災害の防止を図ります。

応急危険度判定士から、熊本での活動報告をお伝えします。

応急危険度判定とは

大地震により被災した建築物を調査し、その後に発生する余震などによる倒壊の危険性や外壁・窓ガラスの落下、付属設備の転倒などの危険性を判定することにより、人命にかかわる二次的災害を防止することを目的としています。

その判定結果は、建築物の見やすい場所に表示され、居住者はもとより付近を通行する歩行者などに対してもその建築物の危険性について情報提供することとしています。

また、これらの判定は建築の専門家が個々の建築物を直接見て回るため、被災建築物に対する不安を抱いている被災者の精神的安定にもつながるといわれています。

熊本に到着

平成 28 年 4 月 25 日、13 時に博多駅に到着、そのまま熊本市へと向かいました。

熊本県の新玉名駅を過ぎると、屋根にブルーシートを張った建物が見られるようになりました。

現地の天気は雨です。雨漏りなどで不自由しているのが危惧されます。

熊本駅に到着。新しいビルは被害が少ないが、古い木造の建物は傾斜、瓦屋根の落下、モルタル外壁の破損があり、危険を表す赤紙が貼られていました。古い鉄筋コンクリート構造のビルでは外壁のタイルが落下したり、亀裂が入っていたりする建物がありました。

15 時に熊本市役所へ到着し、周辺を視察しました。熊本城は、石垣が崩れ、やぐらが倒壊。道路は擁壁が崩れて、車線規制されているところもありましたが、おおむね普通に通行できていました。コンビニでは食料品を含め普段通り営業していました。

判定士の受付を済ませ、市役所から約 30km 離れた宿泊先の菊鹿公民館にバスで 1 時間 30 分かけて移動。明日からの任務に備えました。



熊本市役所前の様子



崩壊した熊本城

全国から 571 人の判定士が集まる

平成 28 年 4 月 26 日、熊本市役所に全国から 571 人の判定士が集まりました。

関東甲信越から 252 人、北海道東北から 102 人、近畿から 86 人、中部から 82 人、中国四国から 49 人です。神奈川県内からも横浜市や愛川町など多くの職員が現地入りしました。

応急危険度判定は、地盤や外観の様子などにより、建物の倒壊の危険性を判定していきます。判定後は、倒壊の危険度により赤・黄・緑の 3 色の紙を貼り、注意を促します。

厚木市が担当した判定区域は住宅地で、倒壊するような建物はなく、比較的被害が軽微でしたが、一部で屋根瓦の破損・落下やブロック塀の傾斜・倒壊が見られました。

住民の方々は、自分たちは神奈川県から来たと伝えると「そんなに遠いところから」と驚かれていました。判定結果を報告すると皆さん安心したようで、一様に感謝されていました。

(4 月 26 日の判定概要)

判定区域：熊本市東区

判定棟数：16 棟



出発前の指示を受ける判定士

複数回の揺れで被害が拡大

平成 28 年 4 月 27 日、天候は雨。今日は、熊本市役所に市民から判定要請があった建物を個別対応で判定するよう指示がありました。

判定したのは全て住宅で、全部で 5 棟を回りました。

調査した建物には、外壁の亀裂があったり、若干の傾きがあったりと危険な状態のものが多くありました。家の周囲も屋根瓦が破損して落下したり、ブロック塀が倒れていたりしていました。

住民の方に話を聞くと、14 日の前震で外壁にひびが入り、16 日の本震でその部分が大きな亀裂となって一部が剥がれ落ちてきたそうです。瓦の落下もあったので、不安になって熊本市役所に要請をしたとのことでした。

判定場所に行く途中も、外壁や瓦の落下、ブロック塀の倒壊が多く見られました。一刻も早い復旧が望まれます。

(4 月 27 日の判定概要)

判定区域:熊本市南区

判定棟数 全 5 棟



傾きや亀裂などを確認

益城町での応急危険度判定

平成 28 年 4 月 28 日。今日は震度 7 の地震を記録した益城町の建物を判定するよう指示がありました。

判定したのは全て木造住宅です。宅地造成が行われた場所では、盛り土の土留めが傾いたため地盤が沈下し、建物の窓枠に歪みができたり、地面に亀裂ができていたりする場所がありました。

また、屋根瓦が破損し落下していたり、ブロック塀が倒れていたりするなど、建物の周囲は、がれきで埋め尽くされている状況でした。

途中、指定避難場所ではないが多くの避難者が集まる益城町のグランメッセ熊本の様子を見ました。まだ多くの方が、車中やテントで避難していました。

指定された場所での判定終了後、益城町役場周辺を通りましたが、いたるところで建物が倒壊したり、道路や地盤に歪みや亀裂が入ったりして、私たちが応急危険度判定を行なった区域では見られない甚大な被害状況でした。

本日で予定していた任務は終了となります。

一刻も早い復旧を願いつつ、厚木に戻ります。

(4 月 28 日の判定概要)

判定区域： 益城町

判定棟数 全 4 棟



地震により亀裂の入った建物



調査の確認事項の指示を受ける判定士